

令和8年度 滋賀県言語聴覚士会総会

日時：令和8年6月13日(土)9:00～

場所：zoom

令和7年度事業報告

執行部報告 ー全体報告ー

主な活動内容

総会実施、R8年度の選挙公募	県士会組織の整備・調整
日本言語聴覚士協会・近畿府県士会との活動協力	県民参画事業（県リハセン共催）
災害対策研修会（滋賀JRAT）	被災地支援活動
学術行事（先輩に聞いてみよう、症例検討会、生涯学習基礎講座）	
啓発活動、ホームページ更新	3士会合同研修（災害リハ研修等）
失語症意思疎通支援者事業	びわこリハビリテーション専門職大学との連携協定締結
定期理事会	

- ・ 総会、理事会、学術行事はzoomを利用したオンライン研修を実施した。
- ・ 失語症意思疎通支援事業は現地開催で実施した。

会長活動報告

言語聴覚士会理事会の招集/開催 *

滋賀県リハビリテーション協議会 *

滋賀県リハビリ3士会会長会議 *

滋賀県POS連絡協議会(家守) *

地域リハビリテーション人材育成活用検討会議(県リハ)

滋賀県リハビリテーション職能団体会長・POS連絡協議会会長会議 *

国スポ・障スポ実行委員会総会 *

全国都道府県士会会長会議 *

士会協会連携体制構築連絡協議会 *

近畿府県士会交流会および近畿府県士会合同会議

滋賀県主催 在宅医療セミナー検討会(家守)

地域リハビリテーション活動支援事業

失語症意思疎通支援者事業 *

* は複数回出席

会計報告／会計監査

	摘要	令和7年度 予算案	令和7年度 決算
収入の部			
会費	¥4,000 × 100名	¥400,000	¥420,127
活動支援金		¥100,000	¥99,375
基礎講座受 講料	県外・非会員参加 者参加費¥2,000	¥50,000	¥100,000
利子		¥500	¥1,969
小計		¥550,500	¥621,471
繰越金		¥1,485,277	¥1,485,277
合計		¥2,035,777	¥2,106,748

	摘要	令和7年度 予算案	令和7年度 決算
支出の部			
事務関連費	事務物品費 郵送代 ZOOM契約料など	¥90,000	¥106,684
渉外費	後援費用など	¥10,000	¥24,220
教育・研究費	会場使用料 講師代、資料代、茶菓子代	¥100,000	¥90,000
啓発活動費	イベント雑費	¥30,000	¥39,004
士会活動・ 旅費交通費	近畿交流会・会長会議費・ JIMTEF研修会費用・防災 訓練出展費・訪問リハ研修 費・失語症支援事業	¥200,000	¥167,720
士会運営費	理事会費、雑務・執筆代	¥100,000	¥115,000
選挙費		¥0	¥0
積立金（災害・ JRAT派遣用）		¥20,000	¥0
合計		¥550,000	¥542,628

事務局報告

- 1) 令和7年度定期総会をzoomにて開催
- 2) 他団体との諸連絡その他の事務処理
- 3) 会員への諸連絡その他の事務処理
(入会・退会・登録情報の管理等)
- 4) 事務局問い合わせ(個人の相談等)への対応

財務部

- 1) 年会費の出納
- 2) 県士会活動費の出納
- 3) 会計報告(上記報告済み)

* 失語症事業は県からの基金のため、士会の会計から除外。
会計は滋賀県理学療法士会に委託。

学術部 *全てzoom開催

令和7年度は学術行事を計7回開催し、延べ172名（県内78名、県外94名）が参加した。

第1回（令和7年6月8日）

先輩に聞いてみよう「半側空間無視へのアプローチ」 41名（県内26／県外15）

第2回（令和7年7月4日）

基礎講座「言語聴覚士の倫理」 21名（県内5／県外16）

第3回（令和7年8月22日）

嚥下障害症例検討会 42名（県内12／県外30）

第4回（令和7年9月5日）

基礎講座「EBPに基づく臨床と研究法の基礎」 8名（県内6／県外2）

第5回（令和7年10月3日）

先輩に聞いてみよう「幼児の発達（4～6歳を中心に）」 22名（県内14／県外8）

第6回（令和7年11月21日）

先輩に聞いてみよう「STのためのシングルケース研究法」 17名（県内6／県外11）

第7回（令和8年1月30日）

小児症例検討会 21名（県内9／県外12）

広報部

1. 県士会ホームページの運営・管理
2. 広報活動：リレーメッセージ、県士会活動の発信、ホームページの掲示板設置・撤去(荒らしのため)
3. 県立リハビリテーションセンターおよびPOS各士会との県民参画事業の運営・開催

保険部

- 1) 滋賀県POS連絡協議会・POSコア会議 参加、県基金の運用・会計
- 2) 全国訪問リハ・地域リーダー会議 参加
- 3) 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業における基礎研修・導入研修の開催および運営

リスク管理部

- 1) 災害時リハ対策窓口担当(滋賀JRATと連携)
- 2) 滋賀県総合防災訓練への参加
- 3) JRAT近畿会議への出席
- 4) 滋賀JRAT会議出席、研修会開催
- 5) 近江八幡市での防災講座の講演

事業部

- 1) 滋賀県失語症者向け意思疎通支援者養成講座の開催・運営・会計
- 2) 滋賀県失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の運営・派遣調整・会計
- 3) 失語症における県民講座の開催・運営・会計
- 3) 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会への会員派遣
- 4) 滋賀県在宅医療セミナーの参加および運営会議の参加
- 5) 滋賀県多職種連携学会の参加および運営会議の参加

失語症意思疎通支援事業

- 滋賀県からの委託金で実施
- 税金処理等があるため、会計は滋賀県理学療法士会へ委託

- 委託金：1,669,000円

- 意思疎通支援者養成事業： 1,094,555円
- 支援者スキルアップ講座： 23,668円
- 意思疎通支援者派遣事業： 507,425円
- 意思疎通支援者指導者養成事業： 0円 (zoom開催のため)
- 失語症県民啓発事業： 43,420円

* 超過分68円は県士会負担

* 決算報告書は県へ提出済み

決議1

第一号議案

令和7年度事業報告について

賛成の方はzoomのリアクションで「挙手」を押してください。

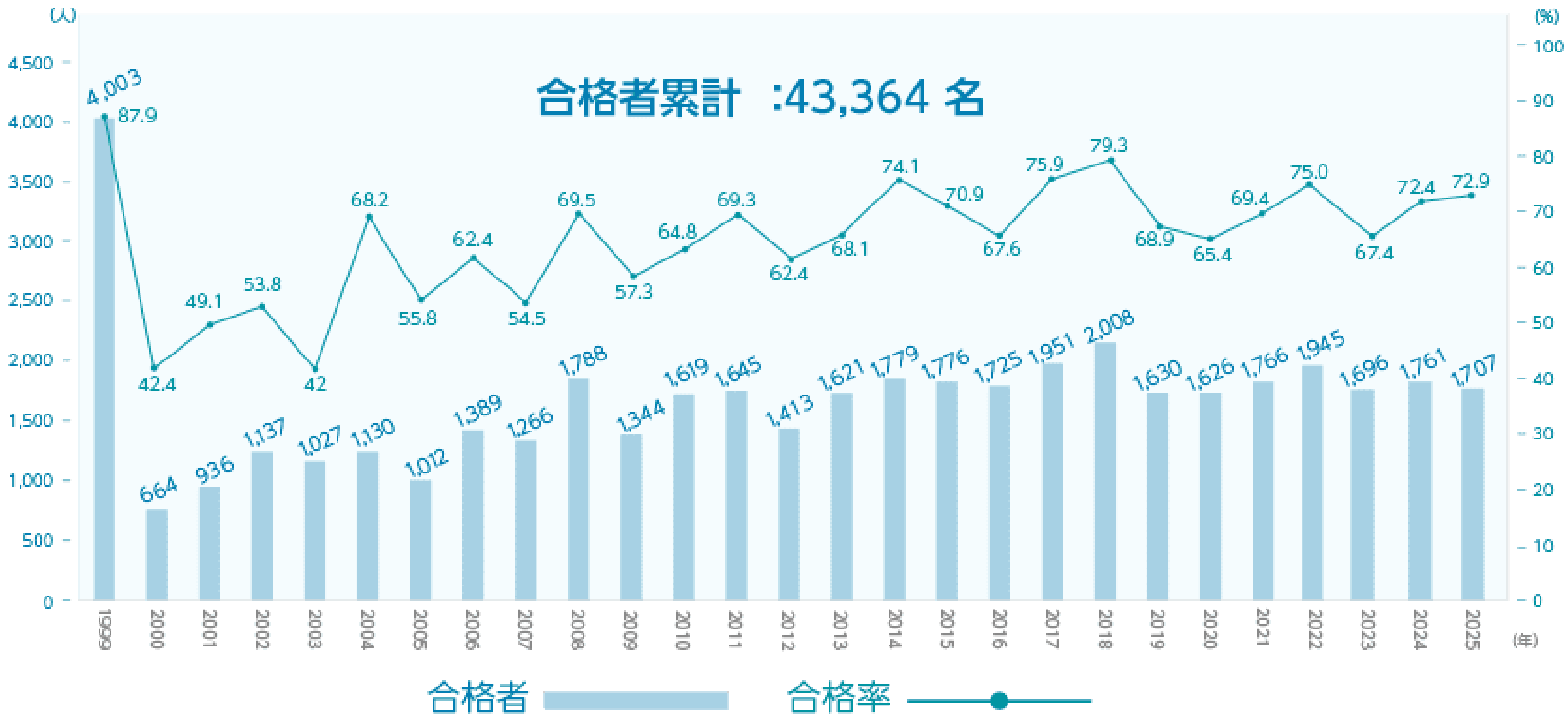
令和8年度理事体制

士会の役割

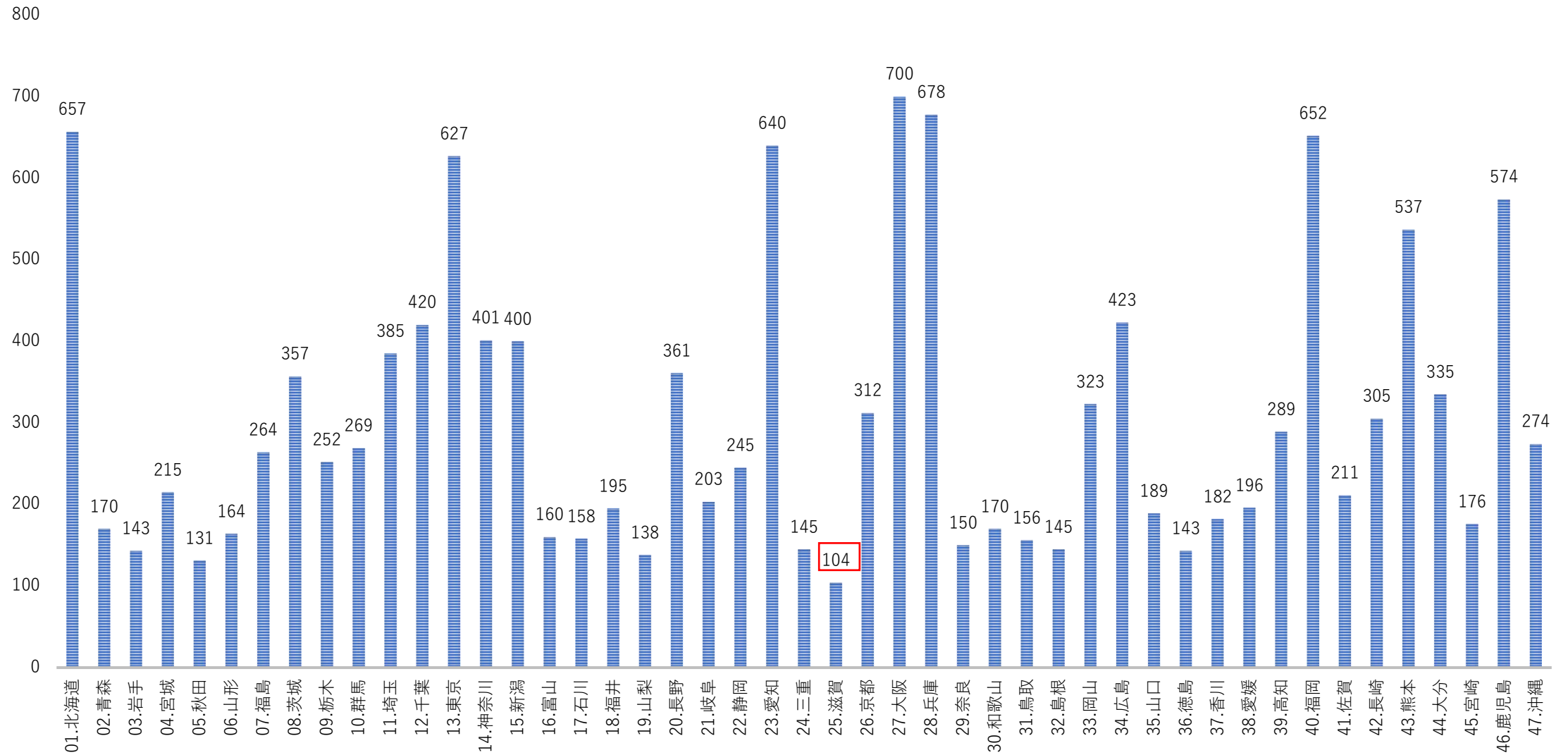
- STとしての職能・職域を維持するため、職業を守るための組織
- STの収入：診療報酬、介護報酬、障害サービス利用料等
- 報酬の決定：厚労省
 - どのように決定されるか？
 - ×勝手に決まる
 - △何も要望を出さなければ報酬は切り下げられる
 - ◎団体が要望を出す→議員を動かす政治力が必要
 - 要望：×個人、○組織

→そのためには協会と士会の連携が必須！！

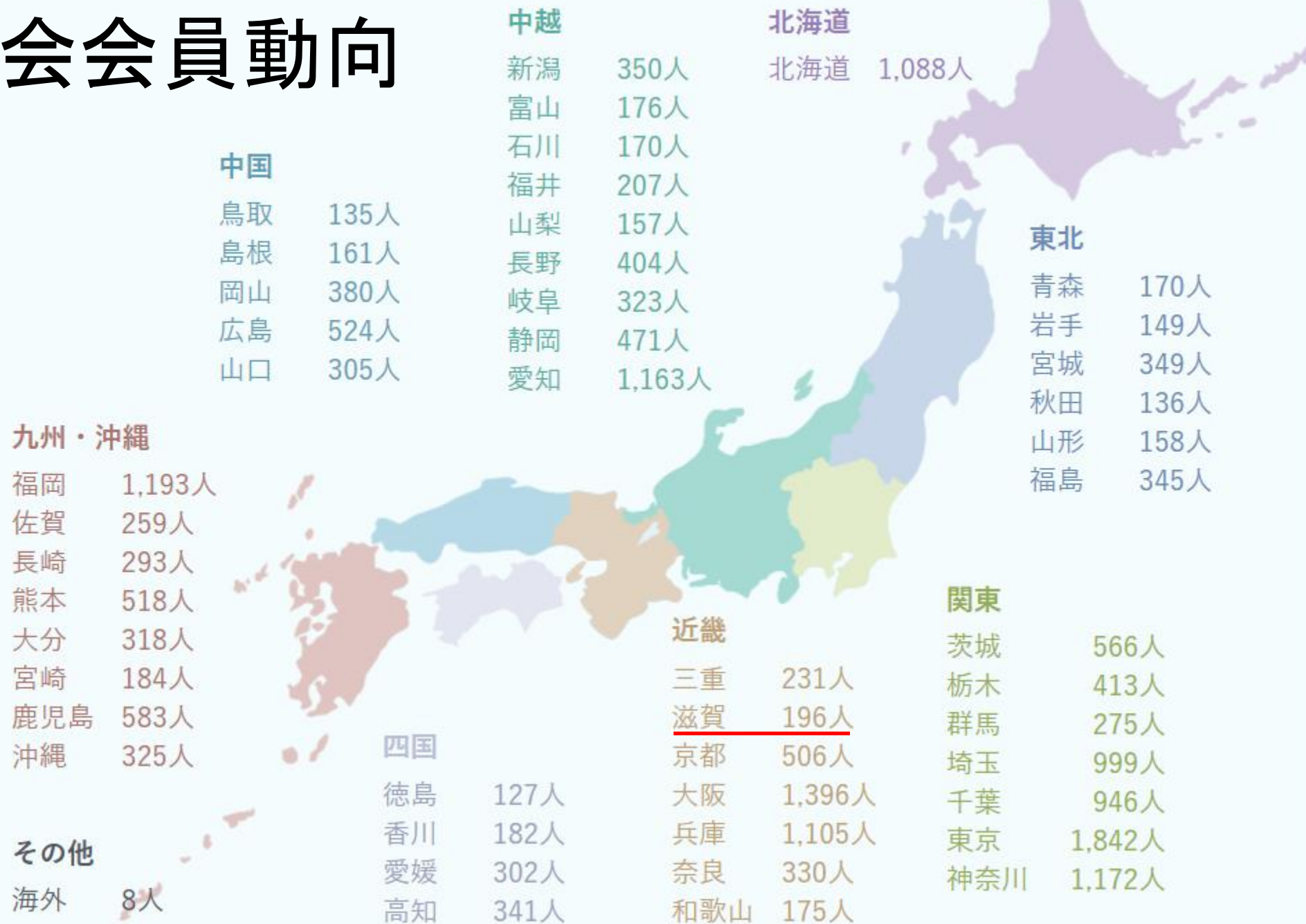
言語聴覚士国家試験合格者動向



2025年度 都道府県士会会員数



協会会員動向



滋賀県内の言語聴覚士会員の状況 2026年4月時点

湖西圏域：5名

大津圏域：22名

湖南圏域：31名

その他：7名



湖北圏域：14名

湖東圏域：7名

東近江圏域：21名

甲賀圏域：7名

合計：114名

今年度以降の士会の主な業務と事業

主な業務

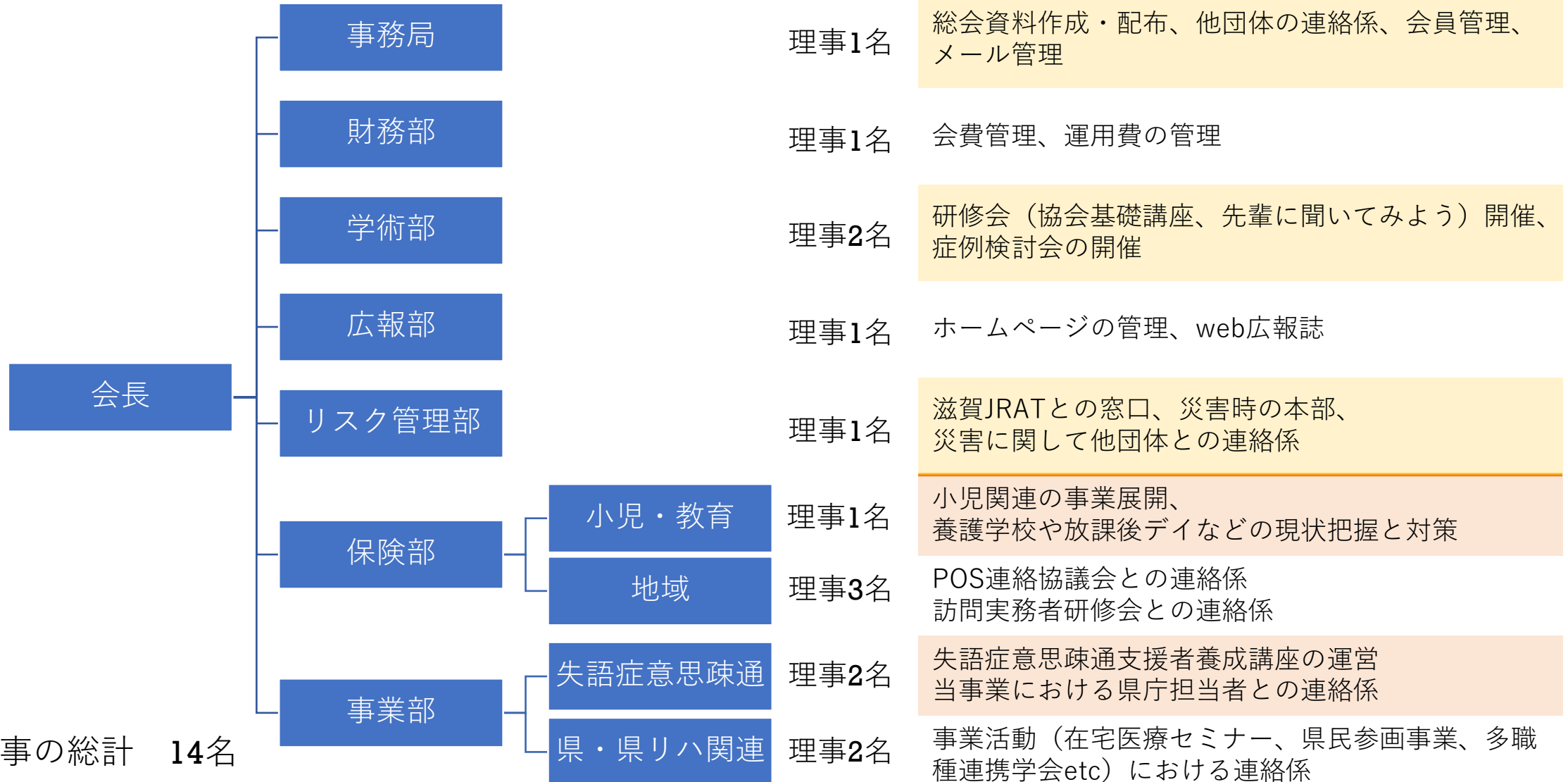
- 事務局
- 財務
- 学術
- 広報
- リスク管理・災害リハ
- 保険部門
- 小児

主な事業

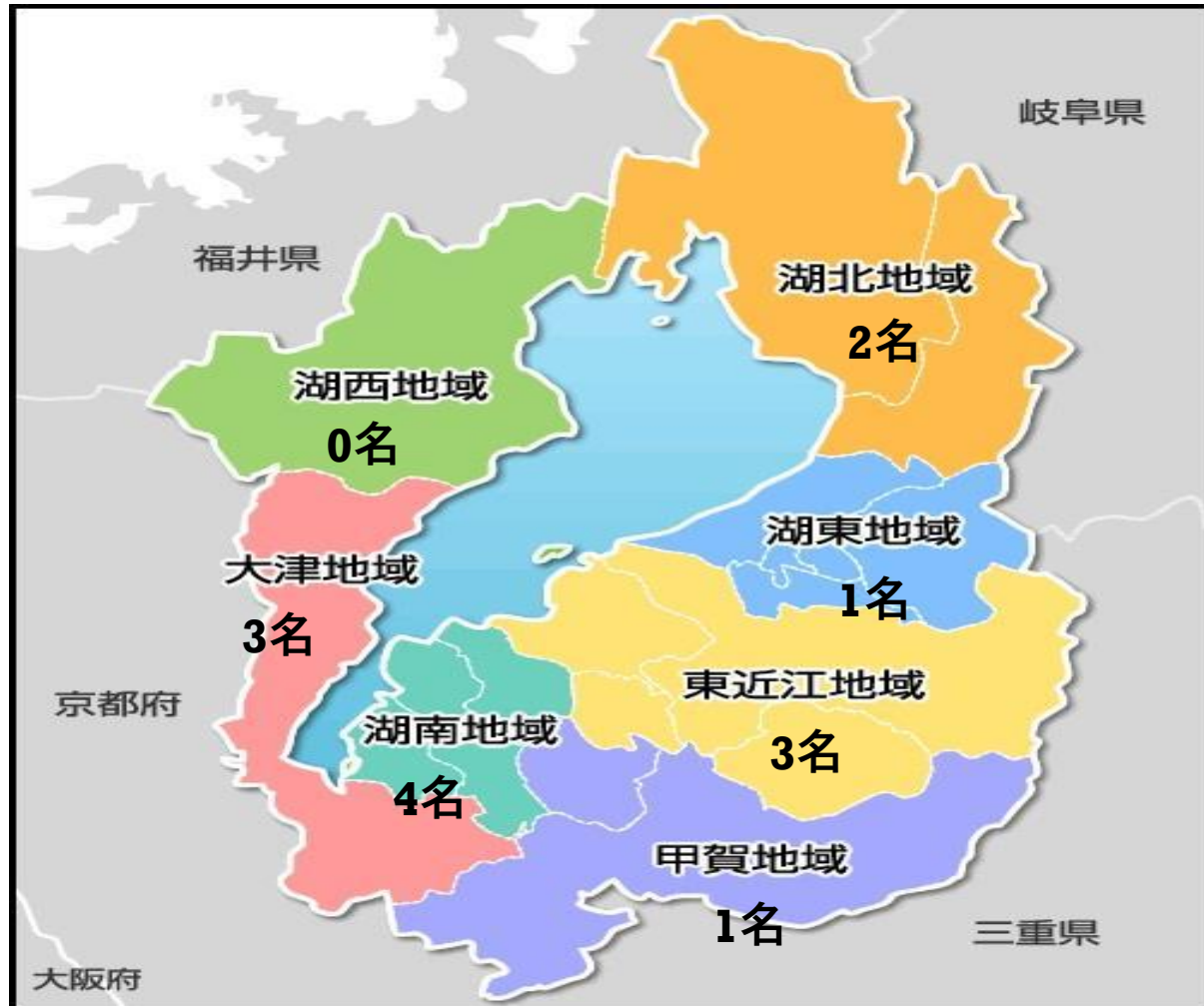
- 滋賀県リハビリテーション推進団体協議会
(士会＋各圏域)
- 失語症意思疎通事業(協会＋県)
- 在宅医療セミナー(県)
- 県民参画事業(県リハセン)
- 多職種連携学会(県リハセン)
- 滋賀JRAT(県、リハ推、医師会)
- その他

組織図

主な業務内容



各圏域への理事の配置



圏域別の会員数 R8.4月現在

2次医療圏域	会員数	理事数
大津圏域	22名	3名
湖南圏域	31名	4名
甲賀圏域	7名	1名
東近江圏域	21名	3名
湖東圏域	7名	1名
湖北圏域	14名	2名
湖西圏域	5名	0名

役職	氏名	圏域	所属	担当
会長(継) リスク管理部長(継)	佐敷俊成	湖南	滋賀県立総合病院	滋賀JRAT、リスク管理 滋賀県リハビリテーション推進団体協議会 etc
副会長(継) 事務局長(継)	甲斐始	東近江	ヴォーリス記念病院	事務局全般 失語症意思疎通支援事業
副会長(継) 保険部長(継)	家守秀知	大津	大津日赤病院	滋賀県リハビリテーション推進団体協議会 失語症意思疎通支援事業 訪問実務者研修
財務部長(継)	阪下浩平	東近江	近江温泉病院	財務全般
学術部長(継)	田邊信彦	湖北	市立長浜病院	研修全般 協会基礎講座、症例検討会 etc
広報部長(継)	高山圭	大津	滋賀医科大学附属病院	県・県リハ関連事業
理事(継)	平川圭子	湖南	滋賀県立総合病院	滋賀県リハビリテーション推進団体協議会
理事(継)	伊井純平	大津	フリーランス	滋賀県リハビリテーション推進団体協議会 県・県リハ関連事業 失語症意思疎通支援事業
理事(継)	相宗菜摘	湖南	滋賀県立総合病院	小児分野事業
理事(継)	畑孝司	甲賀	甲西リハビリ病院	滋賀JRAT、リスク管理
理事(継)	塩谷祐子	湖南	リニエ訪問看護ステーション草津 リニエプラッツ草津	滋賀県リハビリテーション推進団体協議会 県・県リハ事業、地域リハ関連
理事(継)	長谷川味香	湖北	長浜赤十字病院	研修全般 協会基礎講座、症例検討会 etc
理事(継)	小野奈津子	湖東	彦根中央病院	滋賀県リハビリテーション推進団体協議会
理事(継)	岩本徹	東近江	びわこリハビリテーション専門職大学	失語症意思疎通支援事業 県・県リハ関係

決議2

第二号議案

新理事体制について

賛成の方はzoomのリアクションで「挙手」を押してください。

令和8年度事業計画・予算案

執行部提案一全体方針一

総会実施、R8年度の選挙公募	県士会組織の整備・調整
日本言語聴覚士協会・近畿府県士会との活動協力	県民参画事業（県リハセン共催）
災害対策研修会（滋賀JRAT）	被災地支援活動
学術行事（先輩に聞いてみよう、症例検討会、生涯学習基礎講座）	
啓発活動、ホームページ更新	3士会合同研修（災害リハ研修等）
失語症意思疎通支援者事業	びわこリハビリテーション専門職大学との連携
定期理事会	

令和8年度予算案

	摘要	令和7年度 決算	令和8年度 予算案
収入の部			
繰越金		¥147,5620	¥1,475,620
会費	¥4,000 × 100名	¥303,537	¥400,000
活動支援金		¥99,375	¥100,000
基礎講座受 講料	県外・非会員参加 者参加費¥2,000	¥86,000	¥50,000
利子		¥666	¥10
合計		¥1,965,198	¥2,025,630

	摘要	令和7年度 決算	令和8年度 予算案
支出の部			
事務関連費	事務物品費 郵送代 ZOOM契約料など	¥64,362	¥90,000
渉外費	後援費用など	¥7,985	¥10,000
教育・研究費	会場使用料 講師代、資料代、茶菓子代	¥161,000	¥100,000
啓発活動費	イベント雑費	¥6,014	¥30,000
士会活動・ 旅費交通費	近畿交流会・会長会議費・ JIMTEF研修会費用・防災 訓練出展費・訪問リハ研修 費・失語症支援事業	¥167,560	¥250,000
士会運営費	理事会費、雑務・執筆代	¥73,000	¥112,000
選挙費		¥0	¥0
積立金(災害・ JRAT派遣用)		¥0	¥20,000
合計		¥479,921	¥612,000

事務局

- 1) 令和8年度定期総会開催運営
- 2) 他団体への諸連絡その他の事務処理
- 3) 会員への諸連絡その他の事務処理
(入会・退会・登録情報の管理等)
- 4) 事務局問い合わせ(個人の相談等)への対応

財務部

- 1) 年会費の出納
- 2) 県士会活動費の出納
- 3) 会計報告

他金融機関からゆうちょ銀行への振り込みの際の振込手数料は自己負担していただきますようご協力よろしくお願いいたします。

払込取扱票による振り込みは手数料が掛かりませんのでご利用ください。

* 失語症事業は県からの基金のため、士会の会計から除外
会計は滋賀県理学療法士会に委託

学術部

1) Web開催での研修会

基礎講座

7月3日『3. チーム医療のありかた』(佐敷先生)

9月18日『4. 言語聴覚士のキャリア形成』(田邊先生)

先輩に聞いてみよう

6月13日『右半球損傷のコミュニケーション障害の評価と対応』(種村純先生)

10月16日『明日から臨床に活かす最新の摂食嚥下リハ』(岩本徹先生)

11月 内容未定

2) 症例検討会(日程調整中・症例募集中)

8月7日(金)嚥下障害:介入が奏功せず発症に至った訪問リハの症例

1月 内容未定

2月 内容未定

広報部

- 1) 県士会ホームページの運営・管理
- 2) 広報活動: リレーメッセージ、県士会活動の発信
- 3) 県立リハビリテーションセンターおよびPOS各士会との県民参画事業の運営・開催

保険部

- 1) 滋賀県リハビリテーション推進団体協議会（リ推協、旧POS連絡協議会）・コア会議 参加、県基金の運用・会計
- 2) 全国訪問リハ・地域リーダー会議 参加
- 3) 滋賀県訪問リハビリ振興委員会運営会議・滋賀県訪問リハビリ実務者研修会開催および運営
- 4) 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業における基礎研修・導入研修の開催および運営

リスク管理部

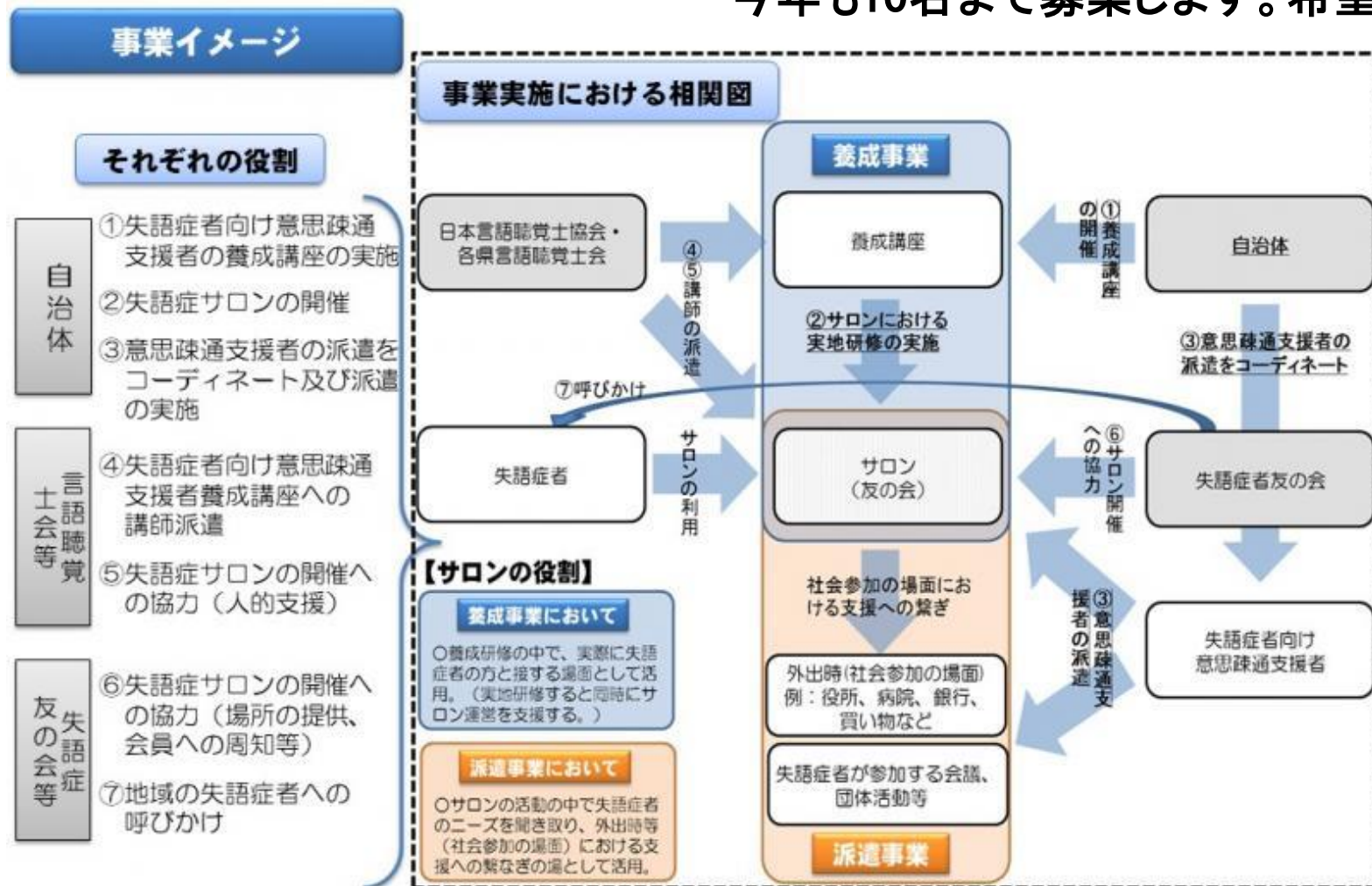
- 1) 災害時リハ対策窓口担当(滋賀JRATと連携)
- 2) 滋賀県総合防災訓練への参加
- 3) JRAT近畿会議への出席
- 4) JIMTEF災害医療研修受講:1名(予定)
- 5) 各圏域での県士会災害担当窓口の依頼の継続

事業部

- 1) 滋賀県失語症者向け意思疎通支援者養成講座の運営・開催・会計
- 2) 滋賀県失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の運営・派遣調整・会計
- 3) 失語症における県民講座の運営・開催
- 4) 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修への会員派遣
- 5) 滋賀県在宅医療セミナーの参加および運営会議の参加
- 6) 滋賀県多職種連携学会の参加および運営会議の参加

失語症者向け意思疎通支援事業

今年も10名まで募集します。希望者は事務局まで！



県及び市町村と連携して、失語症者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるように、失語症者の外出に同行したり、交通機関の利用を援助したり、当事者会（失語症友の会など）でのコミュニケーションの援助などを行うことのできる、失語症者向け意思疎通支援者の養成を行います。

厚生労働省より委託され、協会が主催している研修会に年1～2名参加してもらい、養成講座の講師を育成しています。

決議3

第三号議案

令和8年度事業計画・予算案について

賛成の方はzoomのリアクションで「挙手」を押してください。

定款(会則)の変更

第2章 第5条(会員)

変更前

3. なし

変更後

3. 本土会会員は日本語聴覚士協会に正会員として入会することとする。

付則

第5条-3は令和9年4月から有効とする。

第6条(入会)

変更前

会員になろうとする者は、入会申込書に、別に定める会費を添えて会長にて提出し、理事会の承認を受けなければならない。

変更後

会員になろうとする者は、**士会ホームページの入会申込フォーム**にて提出し、理事会の承認を受けなければならない。

第8条(会員の資格喪失)

変更前

資格喪失の項目なし

変更後

第8条(会員の資格喪失)

1. 退会したとき
2. 成年被後見人又は被保佐人になったとき
3. 死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は会員である団体が解散したとき
4. 2年以上会費を滞納したとき
5. 除名されたとき
6. 会員が言語聴覚士の免許を取り消されたとき
7. 日本言語聴覚士協会の正会員資格を喪失したとき

* 以降、条数を1つずつ変更する。

第9条（任意退会）

変更前

第8条（退会）

1. 会員は、退会届を会長に届けることにより退会することができる。
2. 会員が会費を2年間にわたり未払いの場合は退会したものと見なす。

変更後

第9条（任意退会）

1. 会員は、別に定める退会届を提出することより、任意に退会することができる。
2. 前項の退会届は、退会する年度までの経費負担を履行していなければ、提出できない。

第13条（役員任期）

変更前

2. 会長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げないが、4期8年を限度とする。

変更後

2. 会長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

決議4

第四号議案

定款の変更について

賛成の方はzoomのリアクションで「挙手」を押してください。

協会から：士会・協会連携体制構築

- 士会・協会の連携・情報の一致化について
- 会員情報：協会が一元管理する。
- 会費納入：協会が協会費と同時に士会費を徴収する。
 - * 士会費の変更は、士会総会での承認が必要
- 加入：今後、士会・協会の同時加入が必須となる。窓口は協会。
- 2026年度(R8)から開始、2030年度(R12)完了目標

	連携体制構築推進に向けた活動	実施時期等
2023年11月	連携体制構築の必要性に関する説明資料作成	原案を秋期士会会長会議に提出
2023年11月	連携体制の構築を進めることの承認を士会会長会議で得、 連携体制構築推進チーム（推進チーム）を設置	（検討会を改め、連携体制構築推進チームに名称変更？）
2023年11月	連携体制構築推進チーム（推進チーム）設置についての理事会承認	協会については、11月12日（日）の理事会
毎年開催	士会会長会議（2回/年）継続	現状のまま
2023年度中	連携体制構築 担当者会議発足 ⇒士会が担当者を選出	協会は2023年度中に担当者名簿作成
2023年度中	必要性に関する説明資料の完成 ⇒担当は誰か？ 推進チームが妥当か？	完成は2023年度中 ⇒担当は11/11に決定する
2024年度開始	連携体制構築 担当者会議開催（随時開催）	2024年度～
2024年度初め	連携体制構築の必要性を大々的に会員へ広報（協会予算立て） （文章だけでなく、画像やビデオを作成して様々な場面で活用）	HP、学会・研修会等の機会を利用して広報を実施
2024年度中	会員対象のアンケート調査実施又はパブコメ収集	実施の必要性を含め検討

	会員情報一元化に関わる確認項目	検討及び決定方法
2024年度	新人が士会会費を数か月遅らせることはできるかを検討	<ul style="list-style-type: none"> ・連携体制構築推進チームがたたき台の案を作成 ・担当者会議で検討をして各項目の案を作成 ・士会会長会議に報告し、承認を得る
2024年度	両会入会義務に関する規程等の改定準備	
2024年度	情報の一元化に関する規程等の改定準備 （会費徴収、入会申請、会員情報変更手順等）	
2024年度	一元管理する会員情報の項目を決定	
2024年度	士会が随時参照する会員情報項目を決定	
2024年度	入会申請時に士会が必要とする会員情報を決定	
2025年度	会員情報管理システムを構築	
2026年度	会員情報一元化の開始年度（対応が早い士会から開始）予定	
2030年度	会員管理一元化の実施完了の予定年度	

2026年度 協会主催研修会の受講料改定・優先受付をスタート

協会はこれまで都道府県言語聴覚士会（以下、士会）と共同でさまざまな事業に取り組んできました。各事業をさらに発展させるべく、両会の連携体制を強化し、言語聴覚士の職能活動を推進していきます。定款第5条2項「正会員は都道府県言語聴覚士会に入会することとする」に基づき、2026年度から協会主催研修会の受講料の改定および優先受付を導入しますので、下記の内容をご確認ください。

2026年度から適用される「受講料改定および優先受付」の内容

	会員マイページ「所属士会」の登録		非会員
	登録済の方	未登録の方	
全国研修会 （専門講座） 1講座 受講料	2,000円 「優先受付」	4,000円	受講資格なし
認定言語聴覚士 講習会	80,000円 「優先受付」	80,000円	
実務者講習会	15,000円 9,000円 「優先受付」	20,000円 14,000円	25,000円 19,000円 空席の場合のみ受付

* 実務者講習会は、受講時間およびプログラムに応じて受講料を変更する場合がございます。

2025年度中に 士会に入会し、所属士会を会員マイページにご登録ください

1. 協会ホームページから
会員マイページにログインする



2. 右上「設定」から
「登録情報確認・編集」を選択する



3. 一番下、「都道府県士会」の欄へ進み
以下の3つを選択する

- ①所属あり
- ②所属している都道府県士会 (すべて)
- ③ 正会員として所属している士会
(1つのみ)

登録完了！ 両会入会ステータス取得



1. 士会に入会していますか？

「はい」

「いいえ」

2. 正会員として所属している士会は1つですか？

「いいえ」

* 正会員以外であれば
複数の士会に所属できます。

「はい」

正会員として入会する
士会を1つにする

3. 自宅又は所属施設のある都道府県の士会ですか？

「いいえ」

自宅又は所属施設のある
都道府県の士会に入会する

「はい」

士会に入会する

自宅又は所属施設のある
都道府県の士会に
正会員としてご入会ください

会員マイページ登録 両会入会ステータス取得

損害賠償保険

- 協会加入者は自動的に損害賠償保険（基本保障）が付帯
- 協会年会費10,000円（834円/月）でこの保証が付帯
→ 言い換えれば、834円/月で損保に加入していることとなる

	基本補償（年会費に含まれる）	追加補償（任意、1,600円/年）
対人賠償	1事故3,000万円 （保険期間中最大9,000万円）	1事故1億円 （保険期間中最大3億円）
対物賠償	なし	1事故・保険期間中100万円 （免責金額 1事故 1,000円）
人格権侵害	1事故・保険期間中300万円	なし
初期対応費用	なし	1事故100万円 （うち身体障害についての見舞費用は、1事故において被害者1名につき3万円限度）
弁護士・訴訟費用	あり	あり

STAND UP/医書jp

- STAND UP
バックナンバーも読める

- 医書jp内の言語聴覚研究に
すべてアクセス可能

JAS 一般社団法人 日本語聴覚士協会
Journal Association of Speech-Language Hearing Therapists

QR 保険申込 協会HP

メッセージ 支払 研修会 お知らせ 求人情報 **刊行物** ヘルプ 設定 ログアウト

刊行物: STANDUP

第82号 2026年3月発行
第81号 2026年1月発行
第80号 2025年12月発行
第79号 2025年9月発行
第78号 2025年7月発行
第77号 2025年5月発行
第76号 2025年3月発行
第75号 2025年1月発行
第74号 2024年12月発行
第73号 2024年10月発行
第72号 2024年8月発行
第71号 2024年6月発行

isho.jp 医学専門雑誌・書籍の電子配信サービス

日本語聴覚士協会 ログイン

雑誌・書籍まとめて検索 **雑誌 オールアクセス / MedicalFinder** 書籍 eBookアラカルト

雑誌文献を検索します。書籍を検索する際には「書籍検索」を選択してください。

キーワード

雑誌情報 このジャーナル すべてのジャーナル [→ 詳細検索 by 医中誌](#)

トップ > 言語聴覚研究 > 23巻1号(2026年3月)

基本情報

言語聴覚研究
23巻1号
(2026年3月発行)
電子版ISSN:
印刷版ISSN:1349-5828
日本語聴覚士協会

言語聴覚研究 23巻1号 (2026年3月発行)

選択した文献の

すべて選択

シンポジウム 地域における難聴高齢者支援

難聴と認知症—補聴器と人工内耳と内視鏡下耳科手術による対応
伊藤 史
23巻1号, 2026年3月, pp.3-9

県医療福祉拠点

- 滋賀県リハビリテーション推進団体協議会(旧POS連絡協議会)として入居
- 県からの基金を用いた人材育成事業、自動車運転支援事業、滋賀JRAT等でこの拠点を活用予定

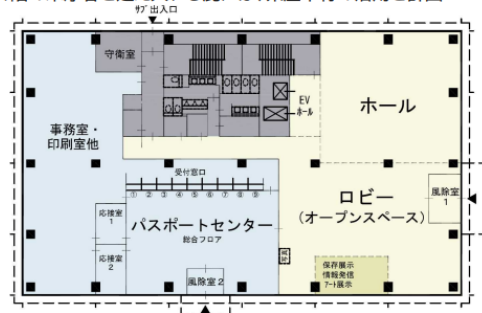
1-3. 医療福祉拠点構想

- 「医療福祉拠点構想」とは、県庁周辺の県有地利活用の観点、高齢化の進展と人口の減少を見据えた医療福祉の連携強化および人材確保・養成等の観点から、県庁西側の一団の県有地を活用して**医療福祉センター機能、医療福祉関係の人材養成機能**を有し**県庁周辺の賑わいを創出**する医療福祉拠点を整備しようとするもの
- 医療福祉センター機能は県が主体となって整備
- 医療福祉関係の人材養成機能は民間活力を活用して実現
- 県庁周辺の賑わい創出は医療福祉拠点の整備用地全体の土地の利用条件とし、それぞれの機能が整備主体の連携を通じて相乗した効果が発揮できるよう配慮

	医療福祉拠点の機能等	整備主体	期待される効果
①	医療福祉センター機能	滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携強化・人材育成機能 ・ 情報発信・交流機能 ・ 災害等危機管理時における多職種間連携 ・ 多団体が集約した事務所機能 ・ 健康危機管理事案発生時の司令塔機能
②	医療福祉関係の人材養成機能	民間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療福祉専門職(リハビリ専門職・看護職・歯科衛生士等)の養成機能 ・ 医療福祉専門職の復職支援機能 ・ 県民、関係団体向けの学習、情報発信、交流機能
③	県庁周辺の賑わい創出	滋賀県 民間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平日昼間や休日の人通りの増加 ・ 県庁や周辺の公共空間に配慮した事業 ・ 在勤者・在住者等の利便性の向上

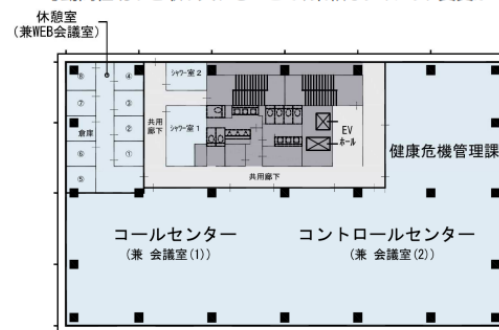
1階

- 県民利用施設(バスポートセンター、ホール(定員90名程度))を設置
- ロビーで、旧体育文化館の記憶保存展示や県民向け健康情報などを発信
- 1階の来庁者を迎え入れる底には、県産木材の活用を計画



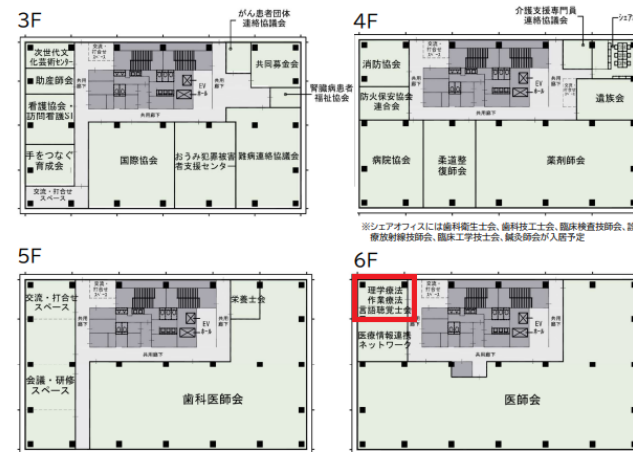
2階

- 健康危機管理事案の司令塔機能として健康危機管理課やコントロールセンターを設置(平常時は会議室として利用)
- 可動間仕切りを取り入れることで、柔軟なレイアウト変更が可能



3階~6階

- 関係団体の事務所機能を集約するとともに、各フロアに交流・打合せスペースを設置
- 3階には相談機能を有する団体を中心に配置



(4) 整備計画

- ①スケジュール

設計完了	令和6(2024)年12月
着工	令和7(2025)年10月
竣工	令和9(2027)年2月
供用開始	令和9(2027)年4月
- ②概算事業費 55億円程度(什器備品除く)

協会から: 臨床実習の変更

- R8年度から、PT/OTと同様にクリニカル・クラークシップ (参加型臨床実習) が開始となる。
- 現行: 臨床経験5年以上
- 変更: 臨床経験5年以上 + **臨床実習指導者講習会受講者**
- 開始時期: R8年度の評価実習、臨床実習 (総合実習) から開始
- 今年度、臨床実習指導者講習会が各地で開催
- 滋賀県では8月29、30日に開催予定

県内養成校

- びわこリハビリテーション専門職大学
リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科が開学

The screenshot shows the website for the Language and Hearing Therapy Department at Biwako Professional University of Rehabilitation. The header includes the university logo and name, navigation links for 'お問い合わせ' (Contact) and '交通アクセス' (Access), and a search bar. A main banner features a student in a white lab coat looking at a tablet, with the text '言語聴覚療法学科' (Language and Hearing Therapy Department), '定員20名' (20 seats), and '[学位] 言語聴覚療法士(専門職)' (Degree: Language and Hearing Therapist (Specialized)). Below the banner, there are navigation links for '学科紹介' (Department Introduction) and '作業療法学科' (Occupational Therapy Department). A blue box contains the text '言語聴覚士とは' (What is a Language and Hearing Therapist?) and 'ことばや聴こえなどコミュニケーションに障害のある方に対' (For those with communication disabilities such as language or hearing). On the right side, there are icons for 'デジタルパンフレット' (Digital Brochure), 'オープンキャンパス' (Open Campus), and 'オンライン個別相談' (Online Individual Consultation).

- 卒業生が県内で働くことができるように。
- 県内養成校の学生の実習受け入れ等をお願いします。

今後とも士会活動へのご理解と
ご協力をよろしくお願い致します。

ご不明な点やご意見がございましたら、ご連絡頂けますと幸いです。